

いまだかつてないほど、とは言えないかもしれないけれど、最近税金について考える機会が多くなっているように思う。確かに、これまでの生活でも税金は役に立っていたが、「コロナ禍」の今では、状況を打開するために、税金はより幅広く使われているように感じる。私は、このような今だからこそ、税金について興味を持った。そして最近こんな出来事があった。

父が、ポストを何度ものぞいている。仕事で忙しいし、わざわざ一階まで降りるのは面倒だから、父が一日に何度もポストをのぞくことは、ほとんどない。このようにポストを頻繁にのぞいているのはなぜか。それは新型コロナウイルス感染症のワクチンの接種券が届くのを待っているからだ。

父が接種券を受け取り、いよいよ接種するということになって、私はふと「ワクチンってどれくらいお金がかかるんやろう。」と思った。ワクチンを作るのにも運ぶのにもお金がかかる。すごく低い温度で運ばなければならない、とテレビで見たことがあった。しかし、違った。違ったというのは、ワクチンが無料で作られていたという意味ではない。国が負担していた、という意味だ。つまり、このワクチンは税金によって賄われている。そして当然だが、税金の使い道はそれだけではない。それで私が思い出すのは救急車についてである。

それは私が小学六年生だったころの夏、とても急勾配な坂で起こった。私の少し先で、高齢の方が後ろに倒れたのである。私は勇気を出して声をかけることはできなかった。しかし、その周りにいた人たちが、初対面のご老人のために救急車を呼んでいた。これは救急車を呼ぶのに税金が使われているからこそこの光景である。もしも、これに税金が使われていなかったら、どうなっていただろう。もしかすると、救急車を呼ぶのをためらって、呼ぶのが遅くなり、あの時の高齢の方は、助かっていなかったかもしれない。そう考えると、税金は人の命をも救うということが身に染みて分かる。税金はそれほどまでに力があるのだ。

日本国憲法第三十条には、こう書かれている。

「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。」

でも、税金について少し知った私にはその言葉にほかの言葉が隠されているように思う。「そして納められた税金は、国民全員がよりよい生活をおくことや健康の保持増進のために使われる。」

税金は、ただ納められ、国がお金を集めるところに、目的があるわけでは決してない。税金が正しく使われることにこそ本来の目的がある。その目的を忘れてはいけないと私は思う。